

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年11月15日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4673400091
法人名	社会福祉法人 曙福社会
事業所名	グループホーム 永喜村
所在地	鹿児島県日置市吹上町永吉14145番地 (電話) 099-299-3480
自己評価作成日	令和3年11月15日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和3年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム永喜村は、平成23年7月に、法人内の2つのグループホームを統合して開設しました。その前身は平成10年10月開設の、元旅館を一部改修した喜楽奈里と、平成12年7月開設の大きな古民家をほぼそのまま使用した村長の家です。2つのグループホームとも開設時から地域の方々のたくさんの協力と温かい理解に支えられ、既存の建物の良さを存分に生かして、運営されてきました。しかしながら、防災安全対策の観点から、耐火性・耐震性に耐え得るべく、平成23年施設の建て替えを致しました。それまでのグループホームの原点、理念、立地条件の良さを、しっかりと引き継ぐ形で開設された永喜村は、まずは「地域とともに」という当初からの理念と、「利用者様とご家族と一緒に楽しく」という理念の元、今日に至っています。開設当初から一緒に頑張ってきた職員も多く残る中、新たに加わった職員と共に、「一緒に語って、笑って、食もって、ああ良か人生」を利用者様に送っていただくことができるよう、日々試行錯誤しています。地域があつてのグループホームであり、利用者様、ご家族あつてのグループホームであることも勿論、職員あつてのグループホームです。地域に対して何ができるかを常に考え、地域の行事や取組に賛同し協力する、そして利用者様、ご家族に対しては、常にその思いに寄り添い、職員皆で一緒に考えていく、そんなグループホームを目指しています。また永喜村のもう1つの特徴は、放課後児童クラブを併設しているということです。現在はコロナ禍にあつて思うような交流はできていませんが、お年寄りと子供たちの交流、そして子供たちを通じて地域との交流も自ずと広がっていきます。今後も交流や活動の幅を広げていきたいと考えています。

消防署立ち合いの下で行う災害訓練を年2回実施すると共に、毎月自主訓練として避難経路の確認や避難誘導、消火手順の確認等、緊急時の対応や職員の動きを繰り返し確認している。現在コロナ禍のため訓練に地域住民は参加していないが、災害時には地域住民の協力が得られる体制を整えている。法人本部を避難場所に指定し、長雨や台風時には実際に避難している。備蓄として飲料水やレトルト食品等を約3日分準備し、カセットコンロや懐中電灯、ヘルメット等の備品を用意するほか、法人が所有する発電機を借りることもできる。

コロナ禍のため地域行事は中止となり、児童クラブや小学校との交流ができない状況が続いているが、日常的に散歩途中の挨拶や会話、野菜や苗物を近所の方から頂く等の地域交流は続いている。また、地域に根差した事業所でありたいとの思いから、毎日の食材を地元で購入している。

令和3年度の運営推進会議は、コロナ感染症の状況に合わせて会議を開催したり、書面で報告し意見をもらう方式も取り入れ実施している。会議には家族や自治会長、地域住民代表や行政職員等が参加して、事業所の活動内容の報告や取り組み、ヒヤリハット報告や災害時の対策について話し合い、運営に反映させることができた。

行政職員とは運営推進会議で顔を合わせるほか、認定更新や事故報告、また運営に関する相談事がある時等に出向き助言をもらっている。行政主催の研修会(権利擁護や人材育成等)に参加したり、地域包括支援センターとの情報交換も密に行い連携を深めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を事業所内の目に付く場所に掲示し、利用者・職員は勿論、ご家族・来客者にもわかるようにしている。以前は、揃いの理念入りTシャツを作った事もある。理念は職員皆で考え、1年に1度見直しと再確認を行っている。	理念をフロアや廊下、事務所や併設している児童クラブ等、目に付く場所に掲示し意識付を図ると共に、年度はじめに理念を共有し実践できたかについてを振り返る機会を設けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として自治会にも入り、回覧板を利用者と一緒に行ったり、地域のお店を利用しながら交流をしている。また、児童クラブを併設しており、迎えに来るご家族とも自然に交流ができています。	コロナ禍のため児童クラブや小学校との交流ができていないが、散歩途中の挨拶や会話、野菜や苗物を近所の方からいただく等の地域交流は続いている。地域に根差した事業所を目指し、地産地消に努めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	例年、地域で催される市の時には、カフェを開き、地域の人に自由に入ったりしてもらったり、独自で開催する「七夕ひろば」では、地域の人達に来てもらい、介護予防などの教室を開催していた。今年度はコロナウイルス感染拡大防止の為、自粛となった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、コロナウイルス感染症の為、書面開催をする事もあったが、ファックスや郵送、電話などでコロナ対策についてなど、情報交換を行い、ご意見を頂いた。また自己評価・外部評価についても報告し、意見等頂いている。	コロナの感染状況に合わせて会議を開催したり、書面報告に代える等して実施している。参加者からは河川の氾濫についてやヒヤリハットについての質問を受ける等、活発な意見交換の場となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	支所に書類提出などで出向いた際、担当者と直接話をするなど、かねてから、相談しやすい関係を築くよう努めている。また、運営推進会議や、行政主催の研修会には毎回参加するなどして、関わりを持っている。	認定更新や事故報告、運営推進会議等、書類提出時に行政職員と顔を合わせるほか、行政主催の研修参加や地域包括支援センターとの待機者確認等、相談や助言をもらう機会は多い。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内では、年に4回程、身体拘束廃止委員会の勉強会があり、職員全体で身体拘束がないか、それにあたらぬかの確認を行っている。無断外出の時には、地域の協力を頂いている。	「身体拘束廃止委員会」「身体拘束適正化検討委員会」を定期的に開催し、身体拘束のないケアの理解に努めている。また、日頃より近所付き合いがあるため近所の方には見守りや声掛けをもらえる関係ができています。行動を制限してしまうような言葉による拘束については、理由付けの徹底を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所では委員会を設け、年に1回高齢者虐待について研修行っており、また身体拘束廃止の研修でも関連して研修行っている。自分たちのケアが身体拘束や虐待に当たらないか、確認をしながら研修行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修は、年間研修計画の中に盛り込み、年1回は皆で研修を行い、理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、文書で分かり易く説明し、不安や疑問が無いかを尋ね、理解や納得して頂けるように配慮している。加算の変更や改定などがあつた際には、文書を配布して、署名と捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話時などに話を伺い、苦情や相談を受け付けると、専用用紙に記入し、全職員に報告をしている。その後、解決策や結果などを明記し、ミーティングで報告するようになっている。また、ケアプランの説明時に意見や要望を伺うようにしている。	コロナ禍で運営推進会議や担当者会議等が行えない代わりに家族には日々の様子報告をこまめに行い意見や要望を尋ねる機会を作っている。また、面会をパーテーション越しに対面で行えるようになったため面会が増え、来所時に意見を伺える機会につながっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から何でも話せる環境作りに心掛け、様々な場面で色々な話し合いが出来ている。ミーティングや会話の中で出た意見を反映できるように努め、法人全体では、年末や年度末に代表者に意見や要望などを伝える機会があり反映されている。	朝夕の申し送り時や毎月の職員会議のほか、状況に応じて個別面談も実施して職員の意見を聞いている。また、年末は法人対象の、年度末には事業所対象のアンケートを取る等、職員の意見を細かく汲み取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の個々のライフスタイルに合わせ、働く時間や休み希望などの配慮がされてる。家事や介護、レクリエーションなど、それぞれの得意分野が仕事に活かされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年度計画の中に研修が組み込まれており、外部研修や法人内研修、それぞれ職員に振り分けて学ぶ機会を設けている。資格取得への支援も行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人連絡会や看護師連絡会、市の事業所連絡会など、他事業所職員と意見や情報交換を行いながら、サービスの質の向上を図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には本人や家族から聞き取りを行い、ケアマネや入所前の事業所等からの情報提供書を参考にしながら、困りごとや不安がないかの把握に努めている。利用時には不安を感じないように、表情や言動に配慮しながら寄り添い、様々な場面で、笑顔での声掛けを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に本人や家族から困りごとや不安などがなくないかを尋ねている。利用して間もない頃には、些細な事でも電話や面会時に本人の様子を伝えながら、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問の面談や情報提供書をもとに必要な支援を見極めてケアプランを作成している。早く新しい生活に馴染んで頂けるよう、丁寧な声掛けを心がけ、安心して生活できるような環境作りに配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、家事やレクリエーションを一緒に行ったり、仕草や表情を汲み取っている。昔ながらの料理など、利用者に教わりながらするものもある。何でも一緒にするという心掛けをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、現状や嬉しい出来事などを伝え、月に1度、お便りや写真を送付し、生活の様子をお伝えしている。また、状態などに変化があった場合には、その都度電話で連絡を取り合い、一緒に心配をしたり喜んだり、気持ちに寄り添えるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に行きつけの病院、お店、美容院、お寺、神社などを聞き、本人が通っていた場所に今まで同様に行けるように支援しているが、今年はコロナウイルス感染拡大防止の為、外出が制限されたが、ドライブや散歩など行えた。	これまでの馴染みの人や場所についてを入居前のケアマネージャー等、関係者から情報を収集し、友人知人との交流の継続や家族の協力の下で自宅に戻る機会を作る等、馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係を把握し、食席や外出時の配車、入浴の順番などに配慮している。話すことや集団に入るのが苦手な利用者には、寄り添ったり、同じ空間を共有することで孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡や入院等で退所された後も、お手紙や電話で連絡を取り合ったりして、必要に応じ相談にのったり話を聴いている。退所後訪ねて下さるご家族も多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活状況を利用者、家族に聞き取りを行っている。職員全員が1人1人の思いや意向に関心を持ち把握しようと努めたり、ケアプランの見直しや更新の際、本人やご家族に希望や要望を聞きながら本人の思いに少しでも近づくよう努めている。	入居時に利用者や家族、関係者等から得た情報を参考に、入居後も日常会話や表情の変化を見落とさないよう努めている。把握した内容はケース記録に記入し申し送り時等に情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族、ケアマネ、それまでに使用していた施設などから情報提供をして頂き、今後の生活に活かしている。法人内のサービスを利用していたら、関係職員からも情報提供をして頂き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	検温やバイタルチェックを毎日行い、記録を残し、変化のある入居者がいた場合には、申し送りを確実にやっている。日々の暮らしの中で、出来ることを無理のない範囲でして頂いている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回のユニットミーティング時、それぞれの入居者について担当者を中心に、カンファレンスやモニタリングを行っている。状態変化やケアプラン更新、見直し時に、本人、家族から希望、要望を聞いている。主治医の意見も伺い、介護計画に反映している。	本人、家族の意見や要望を基に日々の様子や言動、カンファレンスや定期モニタリングのほか、担当職員による日々の気付きや主治医の意見も参考にしながらケアプランを作成している。入退院等により状態に変化がみられた場合は随時プランを見直し修正している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録を意識している。また、記録は見やすくする為に、ケアプラン、医療面、夜間と色分けしている。ミーティング時には、利用者の状況を職員で確認しあい、日々のケアや介護計画に結び付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの事業所内で、できることは何でも実践し、また法人内の施設・事業所と連携し、一緒に行事や研修等を行うことで、サービスの向上にもつながっていると考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年は小学校の運動会や音楽会、夏祭りや文化祭、お寺参りや初詣に参加したり、近隣の理髪店や商店、病院などを利用しているが、今年度はコロナ禍の中、行事やボランティアの交流も見合わせている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続することを基本にしながら、変更される場合には診療情報提供書等を主治医間で共有していただき、安心して適切な医療が提供できるよう努めている。	入居前のかかりつけ医を把握すると共に入居後も家族と職員が協力して受診を支援している。受診時の内容はケース記録に内容に別に色分けして記入し、申し送り時に職員間で情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日検温をして記録に残し、バイタルチェックでの異常、転倒やケガ、状態の変化などがあつたら直ぐに看護師に報告し、かかりつけ医に連絡が行くようにし、オンコール体制も整備されている。緊急時の病院も基本台帳に記載され、一目で分かるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には必ず看護職員若しくは管理者等が付き添い、入院中は、病院に入院中の様子を電話で聞くなどし、家族とも治療の経過や退院の目途等について継続して連絡を取り合っている。(コロナ前は、職員皆が誰でも面会に行き、励ましや状況把握を行っていた)		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や面談時(カンファレンス)に重症化した場合、どのような介助ができるか、ホームで出来ること、出来ないことを家族に説明している。重症化した利用者も、本人、家族の意向を聞き、主治医と連携を図りながら、可能な限りグループホームで過ごして頂いている。	入居時に「重度化した場合における対応にかかる指針」と急変時の対応についての説明を行い同意を得ると共に、入居後も担当者会議や状態に変化がみられた場合等に意向を確認している。看取り期は主治医や家族と支援について話し合うほか、看取りを行った後は職員間で振り返る機会を設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の研修を受けたり、全体のミーティングなどで事故発生時の対応を共有している。また、看護師連絡会で話し合った事や決まった事などを、朝礼やミーティングで報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>月1回、火災、水害、地震などを想定した防災訓練を行っている。非常通報装置を押すと、消防だけではなく、地域の方にも連絡が行き、協力して頂ける体制になっている。台風など事前に避難準備できるものに関しては、法人と連絡を取り、必要に応じて避難している。</p>	<p>年2回消防署立ち合いの下で夜間想定を含む災害訓練を実施するほか、避難経路の確認や避難誘導、消火手順等の自主訓練を毎月実施している。備蓄は飲料水や缶詰、レトルト食材等を約3日分準備し、備品としてカセットコンロやヘルメット、発電機等も用意している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーの確保を職員同士で心掛けている。合同ミーティングの中で、接遇委員会の勉強会を行い、自分のケアや声掛けなどを見直して日々のケアに活かしている。	接遇委員会を設置し、年4回ユニット合同による勉強会を開き、言葉遣いやプライバシーについて話し合っている。トイレ誘導時の声掛けや排泄時のドアの状況、また排泄後の消臭についても気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	満足度アンケートをとり、本人の希望に沿うようにしている。また、食事の嗜好を把握し、苦手な物があれば代替えをしている。意思決定の困難な場合は、表情や仕草を見ながら、本人の気持ちを汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起きたい時、寝たい時、食べたい時、外に行きたい時など、本人のその日の調子に合わせている。行事やレクリエーションの参加も無理強いないで、本人の希望やペース、リズムに合わせて、過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	毎朝、起床時には着る服や髪形など小綺麗に整容行い、特に誕生会や敬老会などの行事では、その時に合った洋服を本人と選んだりしている。また、訪問カットを利用しながら、身だしなみを整える支援が出来る。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一番大事なものと位置づけのもと、本人の好みや食べやすい形態の把握をしている。旬の食材を頂いた時など、利用者を交えながら献立を考え、下ごしらえをしたり、味付け、盛り付けなどを一緒にしている。また片付けや下膳、台拭きなどできる事をしていただくことで、より食事が楽しみなものになっている。	法人の栄養士が献立表を立てるが、利用者の食べたいもののリクエストや差し入れられた食材に応じて随時メニューを変えている。利用者ももやし、根切りやごぼうのささがき作り、おかずの盛り付けに参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を記録に残し、把握している。食事量や水分量が少ない時には、本人の好む物や代替品を準備している。また、基本的には法人内の管理栄養士の献立を使用し、バランスの良い献立となっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状況に応じて、介助や見守り、口腔ケアを行っている。残歯を磨く際の歯ブラシや舌ブラシ、スポンジブラシなどを使用しながら、個々に応じた支援が出来ている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄を基本に取り組んでいる。本人の排泄のリズムを把握し、トイレの声掛けや誘導を行っている。立位が困難な利用者でも、スタッフ2名でトイレ介助を行っている。	排泄チェック表により個々の排泄パターンを把握している。立位が難しくても座位が保てる方には可能な限りトイレでの排泄を支援している。退院時におむつの場合は、早めにリハパンツに戻れるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便、便秘のメカニズムを理解し、散歩の声掛けや、ラジオ体操、トイレ時の腹部マッサージ、食事に食物繊維や乳製品、オリゴ糖などを使用しながら、自然排便に繋がるよう工夫している。また、ドライブなども良い刺激になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	無理強いせず、希望を聞いたり声掛けのタイミングや仕方に配慮している。世間話や歌などを歌い、気持ちよく入れるように支援している。希望については湯船に入られるか、湯加減は良いかなど尋ねながら気持ちよく入って頂いている。	週3回の入浴は冬至にゆず湯を提供したり、入浴剤を使用して楽しく入浴している。リフトを備えているため、重度化しても入浴することが可能である。入浴後の皮膚ケアや入浴前後の水分補給にも努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冬場には湯たんぽや電気毛布を使用したり、室温や湿度に気を付け、本人の活動状況に応じて、休息できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は、全職員が確認出来るように基本台帳や薬手帳ファイルに保管し、変更後には、連絡帳で全職員に周知できるようにしている。服薬時には、誤訳がないよう、二重三重のチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることや得意なことなどを把握し、その場面がある時は、腕前を發揮して頂けるように努めている。利用者同士やスタッフが、教えたり教わったりしながら良い刺激になっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナ禍で外出は難しかったが、そんな中でも敷地内の散歩や法人の所有する自然の森公園に出かけることはできた。今後、またお墓参りやお寺など希望があれば対応していきたい。	コロナ禍のため思うように外出できない日々が続いているが、屋内にいる時間が長いとストレスにつながるため、人混みを避けた場所へのドライブを計画し出かけている。歩行が難しくても車椅子を持参したり、福祉車両を利用して出かけている。自然の森公園での外気浴がよい気分転換になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の管理や所持については、家族と話し合いながら決めている。買い物や食の希望や食べたい物があれば、購入できるよう支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者から家族に電話の希望があれば掛けている。荷物が届いた際には、電話を掛けて本人と話している。手紙や年賀状を読むことが困難な場合は、代読をしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>皆が過ごすリビングは、程よい陽射しと風の通りがあり、季節に応じて適温、適湿度に努めている。また中央には台所があり、料理の匂いや生活音に包まれており、テーブルには季節の花が飾られている。季節に合った掲示物を利用者と作ったり、作品を飾って季節感を感じて頂いている。また玄関入口にベンチを置き、外気浴を楽しめるようにもしている。</p>	<p>玄関にある梅の木がシンボルツリーになっており、毎年初春に見事な花を咲かせ、利用者や家族、地域住民等、来訪者の目を楽しませている。フロアには利用者と職員が作った季節の作品や生花が飾られ明るい雰囲気が感じられる。感染症予防のため換気や加湿に加え手すりやドアノブ等の消毒も徹底させている</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下に椅子を置いたり、居間にソファを置き、思い思いに過ごされている。外の花を見たり、それぞれに思い思いに景色を見て気分転換をされている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物（テレビ、冷蔵庫、タンス、仏壇、ベッド、椅子、写真など）を持ってきていただき、家族と一緒に部屋のしつらえを行っている。また床はフローリングや畳など、本人にあった居室作りをし、居心地良く過ごせるように配慮している。	エアコンとクローゼットが備え付けられており、自宅から持ち込まれたベッドやテレビ、冷蔵庫や仏壇等を自由に配置し居心地に配慮している。また、ベッドではなく布団を好まれる方には畳を敷いて対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所に道具入れを置き、本人が手の届く場所に置いている。表札は見える場所に設置し、自分の居室が分かるようにし、トイレは手すりを増やし、安全に生活できるようにしている。建物全体に手すりを設置して安全に生活ができるよう配慮している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない